

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	単位制・2期制の教育課程に、生徒の60%以上が満足している。	生徒の実態把握のためのアンケートを実施するとともに、適切な講座選択の指導をする。	A	A	A	単位制の科目選択に「とても満足」と「ほぼ満足」が全体の80.5%、「どちらかと言えば満足」まで含めれば90.2%となりました。学校生活について「積極的に取り組んでいる」は全体の69.9%で、昨年度の87.2%より減少しました。様々な学校行事が再開され、生活面でも、コロナ関連の制限が無くなり始めた状況も影響し、「清陵高校が好き」は90.2%、「授業にしっかり取り組んでいる」は88.0%の結果になりました。生徒自身が納得できる生活・取り組みができていないとは言えませんが、大多数の生徒が学校生活に満足している状況がうかがえます。ICT等を活用し職員間の意見の共有を行った結果、100%の職員が会議をして生徒の情報を共有していたころより、情報共有がうまく進んだと考えています。形骸化し始めていた情報交換会議等も廃止することができました。生徒の情報共有のみならず、校務の無駄も改善できました。	AICT利活用が生徒・校務ともに進んだことを嬉しく感じています。使えて当然の地盤ができれば、より一層高度なDXを推進していけると感じます。微力ながら、引き続き何らかの形で協力させていただければと思います。A生徒が自分をどのレベルまでもっていきたいのか、不得意・得意を自分の中で見つめながら授業を受けている様子がある。
		学校生活に積極的に取り組む生徒は60%以上である。	自ら学び、共に学ぶ学習を支援し、学校行事や部活動を充実させ、積極的参加を促す。	B	B	B		
		80%以上の職員が生徒の情報を共有できていると考えている。	ICT等を利用し、職員間の意見の共有をすすめる。	A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	生徒の実態を踏まえ、わかる授業を実施し、70%以上の生徒がよく理解している。	学力実態に応じた指導方法を検討する。基礎学力が低い生徒でも理解しやすい授業を展開する。	A	A	A	A単位制のメリットを概ね享受できているように感じます。A進路に向けて、いろいろな授業担任とも話ができる。	
		70%以上の生徒が、自分の作成した時間割に満足している。	生徒の進路・興味に沿った時間割を作成できるように、担任等が生徒とよく話し合う。	A	A	A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	基礎学力をつけるための国・数・英の基礎講座を受講する生徒の、80%以上の生徒が満足している。また、思考力・判断力・表現力を育てる応用的な内容の講座に80%以上の生徒が満足している。	授業改善を推進し、指導方法を検討する。少人数指導・個別指導を通して学力の向上を図る。また、さらなる学力の向上に資するよう、生徒の実態に合わせて、主体的・対話的に取り組める授業を展開する。	A	A	A		A社会状況に即した授業改善や、休みがちな生徒の対応について、大変な部分もあるかと思いますが、今後も継続していただきたいです。A自分のレベルにあった授業や選択をすることができ、取り組めている。
受講科目において履修が成立した生徒の90%以上が単位を修得している。	休みがちな生徒への学習支援方法を検討し、学力向上に取り組む。	A	-	A				
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	毎週1回生徒・保護者とスクールカウンセラーとの面談日を設定し、係・担任等連携し指導にあたる。	担任、係を通じて、生徒・保護者に対してカウンセリングを紹介する。必要に応じて情報を共有し、連携して対応する。	A	-	A	A日々の声かけや面談機会の捻出、引き続き継続していただきたいです。Aカウンセリングの積極的な活用ができています。	
		いじめの発生防止に努め、迅速かつ組織的に対応し、いじめの解消率が100%である。	学校生活アンケートを実施して、生徒の状況を把握するとともに、いじめ対策委員会を組織し、いじめ解消に向けて迅速に対応する。	A	-	A		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	人権やいじめ、コミュニケーション等に係る教室を年2回以上実施する。	人間関係のスキルアップを図り、いじめの未然防止に向けて、いじめ問題を自分のこととして捉え活動できるよう支援する。	A	-	A		Aいじめの認知件数3件、比較できませんが少なく感じます。認知されていないいじめに近い事象等もきめ、引き続き観察を強化していただきたいと思います。A個人を尊重、また、認めることができています。
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	中学時不登校生徒の50%以上が元気に通学している。	回復途上の生徒を含め適切な把握・対応・支援をする。	A	-	A	A中学校時不登校だった生徒の登校率について、彼女たちの居心地の良い場所を作り出してあげてほしいです。A先生たちの細やかな配慮もあり、登校できている。	
		部活動、学校行事などの体験的・主体的な活動で、大会、公演、作品発表等に各団体(部・委員会等)が1回以上参加する。	部活動、委員会活動等への積極的な参加を促し、活動の活性化を図る。	A	-	A		
		担任による個別面談やHRでの指導によって、生徒が進路を真剣に考え、行動できるよう支援する。自ら動くことしない生徒に対しては、教員から積極的に声かけをし、生徒の行動を促す。	年2回の調査を実施し、生徒の実態を把握し、進路指導に生かしていく。生徒の個別の調査結果を教員間で共有し、生徒の進路実現に向けて積極的に指導を行っていく。進路通信の内容を各学年や進学・就職希望者ごとに分けるなど効果的に進路情報を提供するとともに、三者面談等で生徒に関する情報を保護者と共有し、協力する体制を構築する。	B	B	B		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	進路通信を年10回配信する。進路希望調査を前期・後期の年2回実施し、生徒に進路を考える機会を与え、生徒の進路意識の実態を把握する。また、進路希望に対する家族の理解が50%以上である。	担任による個別面談やHRでの指導によって、生徒が進路を真剣に考え、行動できるよう支援する。自ら動くことしない生徒に対しては、教員から積極的に声かけをし、生徒の行動を促す。	B	-	B	B進学や進路について、真剣に考えず現実逃避してしまう生徒も多いと感じています。情報共有はもちろんですが、多様なニーズに合わせた多様な選択肢を提示していただきたいと思います。A進路の希望や選択を増やすようにどこか(LHRなど)で取り組みないか。B学年で進学、就職希望ごとに進路通信の内容を変えて発信している点。B生徒の希望ややりたいことなどを話し合う時間(放課後など)として、気軽に楽しめるコミュニケーションづくりはどうか。	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を深く考え、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が50%以上である。	年2回の調査を実施し、生徒の実態を把握し、進路指導に生かしていく。生徒の個別の調査結果を教員間で共有し、生徒の進路実現に向けて積極的に指導を行っていく。進路通信の内容を各学年や進学・就職希望者ごとに分けるなど効果的に進路情報を提供するとともに、三者面談等で生徒に関する情報を保護者と共有し、協力する体制を構築する。	B	B		B
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	学校説明会を実施する。また、学校の教育活動を理解してもらうために、月3回以上のWebによる情報発信を行う。	学校説明会で保護者に情報発信する。Webの更新を適宜行う。	A	A	A	Aweb、インスタによる情報発信と共有機会、非常に素晴らしいと感じています。引き続き家庭や地域への情報発信の継続を強く願います。A保護者の参加を呼びかけられるようなイベントなどの考案をしてはどうか。	
		学校の教育活動を保護者に理解してもらうため、PTA通信の発行を年2回、マナーアップ運動への参加を年3回、大学・専門学校見学会と企業見学会をそれぞれ年1回実施する。	PTAと連携した編集会議でPTA通信を発行する。PTA総会時の学校説明や担任との懇談、マナーアップ運動への参加を通して保護者との情報交換を行い連携を図る。	A	-	A		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	ICTを活用した授業に、生徒の60%以上が満足している。	生徒が「主体的・対話的で深い学び」を行えるようにICTを使った授業の組み立てを心がけ、実践する。	A	A	A	AICTを活用した授業への満足度60%達成、嬉しく感じます。満足度の向上と内容のアップデートについて、更なる研究を続けていただきたいと思います。A慣れているタブレットなどの利用が適切にできているか。また、使用できていない生徒がいるのではないか。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	ICTを活用した通知やアンケートについて、職員の80%以上が業務改善につながっていると考えている。	通知やアンケート、家庭との連絡を電子媒体に変えることをさらに進める。	A	A		A